



株大和 静岡工場（農場）現状報告 4月号

静岡の茶園では、間もなく新茶の収穫がスタートします。

今年の静岡は気温が高く、適度な雨で、とても素晴らしい新芽が育ちました。

秋以降、コツコツと全ての茶園に施した自家製のモミガラ堆肥や、サトウキビを使った土づくりのおかげで、土中には有効微生物菌がたくさん繁殖し、その分解力で土壌中に団粒構造が生まれます。

団粒構造とは土の粒子が小さい団子状にくっついている状態のことで、この構造により、通気・排水に優れ、肥料や水を蓄えやすい土壌が生まれます。農作物作りには最高の状態です。

この団粒構造を作ることによって土がふかふかで柔らかくなり、茶樹の生育に必要な栄養分をたっぷりと吸収しやすくなるのです。まさに“お茶づくりは土づくりから”です。

そして、この豊かな土壌に育まれた元気いっぱいの茶樹は、今年も最高の新芽を出しました！！。肉厚で柔らかな極上の茶葉で淹れたお茶は、滋養と旨みたっぷりの最高の味わいです。

今年も、例年よりさらにグレードアップした素晴らしい新茶を、是非、ご堪能くださいませ。

【新茶収穫の様子】(昨年)

